

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 3年2月22日

事業所名 キッズケアホームにこぴあ

保護者等数(児童数)

回収数 12

割合70.5 %

	チェック項目	はい	どちらともいえない			ご意見	ご意見を踏まえた対応
			いいえ	わからない			
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	12					
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12					
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	12					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12				○今年は特に清潔に気を使っていると感じる	○毎日の清掃、消毒を行い清潔な環境を整えています。今年度は感染予防の為次亜塩素酸ナトリウムでの除菌清掃を一日2~3回行っています。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>児童発達支援計画*2</u> が作成されているか	12					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11			1	○様々な年齢、発達段階がある中頑張りポイントを見つけ支援してくれていると感じた	○支援計画では、一人ひとりの発達特性や発達過程を理解し、また心身の状態を把握した上で計画を作成しています。今後も家族・地域支援も踏まえ総合的かつ見通しをもった支援内容を提供できるように努めます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	11		1			
	8 <u>活動プログラム*3</u> が固定化しないよう工夫されているか	12					
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	6		3	1	2	○保育所や幼稚園等との交流については課題でもあります。園庭開放時など地域での活動参加ができるように検討中です。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10		2		○利用開始時にあった	○契約時に説明を行っています。その他問い合わせがあった時には説明をしています。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	12					○個別支援計画については支援計画を示しながらの個人面談が不十分でありました。定期的に面談を実施していきます。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	10		1		1	○今年度は子どもの発達についての勉強会と先輩お母さんに学ぶ会の場を設定しました。コロナ禍の為継続しての開催が難しい状況でした。

保護者への説明等	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	11	1			○細かい部分(表情や行動)を教えてください本人との会話(ほめる)がスムーズにできる。	○ありがとうございます。今後も送迎時や家庭との連絡帳などで様子を伝えあい課題を踏まえた共通理解に努めます。	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11	1				○日々の活動を通して活動での様子等連絡をこまめに行い必要時には支援会議を行い寄り添いながら支援方法や方向性を共通理解できるよう心掛けています。	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11			1		○イベント時での保護者の方への参加の呼びかけや今年度は食育勉強会等で一緒に学ぶ機会を作りました。保護者同士の関わりができるという会のねらい等、主旨の分かりにくさがありましたので、今後はイベント時に合わせて保護者の方の連携もとれるように努めます。	
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	12					○保育所入所手続き、面談を兼ねた見学に付き合ってもらい非常に助かった。	○今後もいつでも相談することのできる環境を整え適切な対応ができるように各関係機関との連携を大事にします。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12						
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	11			1		○今後もいつでも相談することのできる環境を整え適切な対応ができるように各関係機関との連携を大事にします。	
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	11				1		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	9				3	○緊急時の発生を想定した訓練は実施しているが、各マニュアル周知・説明の徹底が足りずでした。	
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9				3	○避難訓練は実施していましたがお知らせが不十分でした。今年より毎月一回の計画、実施を行っています。にこびあだより等でお知らせを致します。	
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	12						
	23	事業所の支援に満足しているか	12						

\*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

\*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。

\*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 22日

事業所名 キッズケアホームにこびあ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		○児発、放デイの一日利用の重なる際は限られたスペースでの活動の配慮が必要で工夫しながら実施している。 ○職員同士が連携をはかることで適切なスペースを確保できている。 ○利用人数が多いときは狭く感じることがある。	○子どもたちがのびのびと年齢にあった活動ができるよう利用日の調整等もしながら環境(使わない道具は片付ける)を整えていく。 ○朝の会や気持ちを落ち着けて行う活動では小さなスペースでまたダイナミックなあそびをする時は間仕切りを開けて広いスペースで行うようにしている。個別療法(ST)も落ち着ける環境でできるよう配慮している。
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		○児童が分かりやすい遊具の配置、掲示物を少なくし活動時には使用する遊具のみを出し片付けるように工夫をしている。 ○車いすや肢体不自由なお子さんも安心して生活できるようにバリアフリーになっている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		○毎日の清掃、消毒を行い清潔な環境を整えています。今年度は感染予防ため次亜塩素酸ナトリウムでの除菌清掃を一日2~3回行っています。	○その日の活動した遊具や教材の片づけ整理整頓が後回しになりがちであるので時間を有効に使いつつも心地よく過ごせる環境を設定できるように片付け(元の場所に戻す)ことを声掛けあうようにしています。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		○毎日の指導案作成から振り返りまで職員で行っている。	○PDCAサイクルを心がけ毎日の振り返りを個別支援計画に反映し定期的に評価・作成をしている。 ○ショートカンファを月に2回 勉強会を月のペースで行っています。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		○ミーティングで意向を職員間で周知し共通理解をし業務改善につなげている。	○保護者の方からの意見を大切に改善に努めます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		○事業所内への掲示 HPへも掲載している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		○第三者委員の依頼がまだできていない状況である。 ○現在は利用者と社内の評価のみとなっています。今後の検討課題としてまいります。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		○外部研修に参加し支援の質の向上を高めるように努めています が、今年度はコロナ渦で研修会への参加が難しい状況であった。リモートでの参加をできるだけ行った。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			○利用児の実施に応じたアセスメントツール(MEPA-R)など講師を招いて研修し利用児の充実した活動や適切な支援方法などに生かしていきたい。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		○アセスメントツールを使用している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援	○		○ガイドラインに基づく支援内容を設定しさらに各利用者さんに適切な支援内容を具体的に設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		○過去に実施した活動プログラムを振り返りながら活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		○月案を立て利用児の実態やその日の利用児に応じた活動計画を立て設定している。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		○ひとりの発達に応じ得意な所を伸ばす支援を心がけて個別と小集団での支援計画を作成しています。		

関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		○役割分担が分かるように週案計画に役割表を入れ込んで周知しています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		○翌日の朝ミーティング時に振り返り前日の振り返りを行っている。 ○気になった子どもの様子やうまくいったこと又、うまくいかなかったことなど翌日のミーティングで必ず振り返りを行いどのようにしたらいいのかを積極的に意見を出し合い方向性を統一しています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		○日々の記録をとり支援に繋げている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		○半年に一度要望や目標の確認を行い会ショートカンファレンスで個別支援計画の見直しをおこなっている。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		○児発官や必要な時にはリハ職が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		○情報共有を行い連携をして連携した支援ができるようにしている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		○今後も連携をしながら丁寧な支援を行う。緊急性が高いときにはいつでも担当者会議を開き今の現状にベストな支援を行う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		○主治医と、訪問看護ステーションほほえみと連携をすることで医療的ケアが必要なお子さんも安心して通所できる体制を整えています。また嘱託医としては向井クリニックと契約している。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		○移行等状況が発生した場合は、保護者と相談のうえそれまでの支援内容等を情報共有しています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		○移行等状況が発生した場合は、保護者と相談のうえそれまでの支援内容等を情報共有しています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		○現在保育所や幼稚園との交流は課題である。地域にある保育所との交流ができないか引き続き検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		○子ども部会に参加。運営委員会として部会運営について検討提案をし活動をしている。 ○子ども支援net会への参加をしている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		○ペアレント・トレーニングは行っていません。保護者との面談等において希望や思いを随時お聞きして状況に合わせたアドバイスを行っています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		○契約時に契約書と重要事項説明書説明を行っています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		○作成された児童発達支援サービス計画を示し支援の説明を行い、同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		○送迎時や母子通園時などいつでも話しやすい環境づくりを心がけていつでも相談に応じられるようにしている。

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	○母子通園に来られる方は保護者同士の連携ができており職員も入り話をきくことができている。 ○保護者会の開催はなかったが父母参加型の案内を出したり母子通園日を設け保護者同士の関わりの場を今後とも計画をしていく。また今年度は勉強会を計画し保護者同士が意見交換する場を設けたり先輩お母さんのお話し会も等とても好評だったので継続していきたい。	○保護者会としての開催はなかったが行事等で父母参加型の案内を出したり母子通園日を設け保護者同士の関わりの場を今後とも計画をしていく。また今年度は勉強会を計画し保護者同士が意見交換する場を設けたり先輩お母さんのお話し会も等とても好評だったので継続していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	○子どもや保護者からご意見を頂いた場合には各関係機関とも情報を共有し連携しながら改善に努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	○月1日にこびあ便りを作成し活動内容や行事等をお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		○施設で保管する個人情報については厳重に管理している。今後も個人情報の保護には十分に注意して業務を行います。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	○口頭だけの伝達だけでは意思の疎通が図れない場合にはメールなど文面が残る方法でのやり取りを行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		○事業所単位で行うことが多く地域への行事への参加までは至っていない。今後はどのような参加が可能かを検討していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	○月に1回避難訓練実施、その時の保護者への連絡手段、方法など実施している。 ○各マニュアルを策定している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	○毎月計画し避難訓練を実施、振り返りを行い記録に残している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	○契約時に保護者とのアセスメントを実施しお子さんの状況を把握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	○契約時に保護者とのアセスメントを実施しお子さんの状況を把握している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	○リスクマネジメント委員が中心となりレポートを集計しています。事例を検討することでスタッフ間のリスク感性を高める工夫をしている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	○外部研修に参加。職員間で認識を高めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	○基本的には身体拘束は行いませんが、車いすやバギーの安全ベルトは保護者の同意の下行っている。	



保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 3年 2月 22日

事業所名 キッズケアホームにこびあ

保護者等数(児童数)

回収数 7

割合

41 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6			1		○人数に合わせ2室を有効に使用し、広々と活動できるようにしています。必要のない用具は部屋に置かないようにしてい
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	5	1		1		○職場内研修、職場外研修を通して自己研鑽により専門性を高めるよう努めています。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7					
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	6	2				○保護者の方と半年に一度モニタリングを行い、それを踏まえて計画の作成を行っています。また困り事がある場合はいつでも相談を受けることができる体制です。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	6	1		1		○特に長期休みでは子ども達が色々な経験ができるような計画を考えていきます。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	1	1	1	○今年はコロナ禍で難しかったのではないかと…	○夏休みに他事業所さんと交流活動としてプール活動と一緒に行いました。また今年度より地域にある子ども食堂への参加をしましたがコロナ禍で2回ほどしか行けずでした。今後も社会資源を積極的に活用していきま
	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7					○利用開始時に丁寧に説明をし確認していきます。また支援の内容については半年に一度の支援内容の見直しモニタリングを行い必要時にはいつでも対応できるよう努めます
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7				○毎回伝えてくださるのでもことらとしても楽しみになりますその日の様子など内容を知らせてくださり分かりやすいです。	○にこびあでの様子やまた困り事があるときなどいつでも相談できるよう日頃から子どもたちの様子や頑張っていること、できるようになったことなど送迎時にお伝えできるよう心がけています。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	6	1				○送迎時は電話連絡等を利用して本人の頑張っていることやできるようになったことなどまた挑戦している課題等についても今後も情報を共有していきたいと思ひます。

保護者への説明等	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	1		2	○今年はコロナ渦で難しかったのではないかな…	○父母の会としては正式に立ち上げてはませんがクリスマス会や行事等で親子参加する機会を設けてきましたが今年はコロナ渦で密を避けるため子ども達のみでおこないました。今後も交流ができる場を計画していきます。 ○今年度は発達障がいについての勉強会を行いました。また先輩お母さんの話を聞く機会も設定し学を深め保護者の交流の場を持ちました。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			2		○今後もいつでも相談することのできる環境を整え適切な対応ができるよう日頃の連携を大事にします。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7					
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	6			1		○定期的になにこびあだよりを発行しています。自己評価の結果は園内入口にファイルにて公表しています。
	14	個人情報に十分注意しているか	7			1	○そう思っています。	○今後も個人情報には十分な配慮をし守秘義務を徹底します。
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	6			1		○対応マニュアルは策定しているが周知不足である。利用開始の契約時に周知をしていきます。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	1		3	○毎日の利用ではないので利用日があれば参加できている。 ○定期的に行われているのかは分かりません。	○活動計画や内容はにこびあだり等で報告をしています。マニュアルはありますが周知不足でした。今後徹底していきます。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	7				○喜んで通所しています。	
	18	事業所の支援に満足しているか	7				○同年代＆同性が少ないところは気になるがその中でも上手に対応し本人は楽しそうである。 ○ありがたいです。	

\*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

\*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。



放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2 月 22日

事業所名 キッズケアホームにこぴあ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		○エントランスや、園庭の利用 ○利用人数が多い日には工夫しながらエントランス、庭などを利用して過ごしている。	○これからも社会資源などもうまく活用して子どもたちがのびのびと過ごすことができるよう支援していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		○利用人数に応じて職員数を調整しているようです。	○医療的ケアの必要なお子さんが通所する時は訪問看護ステーションほほえみと連携をし、ケアを行なっている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		○車いすや肢体不自由なお子さんも安心して生活できるようにバリアフリーになっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		○毎日の指導案作成から振り返りまでを職員で行っている。	○PDCAサイクルを心がけ毎日の振り返りを個別支援計画に反映し定期的に評価・作成をしている。 ○ショートカンファを月に2回 勉強会を月1のペースで行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		○ミーティングで周知し共通理解、業務につなげている。	○保護者へのアンケートを実施、結果に基づいて必要な改善を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		○保護者アンケートの結果は施設内に掲示し公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		○第三者委員の依頼ができない状況である。今後、地域の方の依頼を検討している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			○外部研修としては研修案内などを周知し、希望者には旅費支給などの制度も利用できる事を伝えていきます。積極的に研修会への参加を行っている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			○利用児の実施に応じたアセスメントツール(MEP A-R)など講師を招いて研修し利用児の充実した活動や適切な支援方法などに生かしていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			○MEPA-Rを導入しアセスメントを行っているがうまく活用できていないのが現状である。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		○月間スケジュール、週のスケジュールをたてどのような活動を行うか検討しながら計画を立てている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		○特に長期休暇では日々の活動が固定化しないように園外活動も多く設定している。	

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			○休日や長期休暇には時間を有効に使うことができるよう社会資源を活用して楽しく過ごすことができるよう配慮している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			○日々の活動計画は立てているが子どもの状況に合わせていつでも変更することができることや、やりたいことをすることもできるという事を周知し支援している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			○朝のミーティングで指導案に基づいて業務分担を周知し、伝達事項や気をつけることなど共通理解を図っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		○次の日のミーティングで振り返りをしている。	○気になった子どもの様子やうまくいったこと又、うまくいかなかったことなど翌日のミーティングで必ず振り返りを行いどのようにしたらいいのかを積極的に意見を出し合い方向性を統一している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		○毎日カルテにその日の様子や気になったことまたその対応などだれが見てもわかるように記載している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		○児発管や必要な時はハ職が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			○各学校と連携をとりながら行っています。主にコーディネーターの先生方を中心に連携をとっている。送迎時には担任の先生との情報交換がうまくできている学校とそうでない学校がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			○主治医と、訪問看護ステーションほほえみと連携をすることで医療的ケアが必要なお子さんも安心して通所できる体制を整えています。また嘱託医としては向井クリニックと契約している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		○必要時に応じて情報交換を行い共通した支援が行えるように努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		○対象児がまだいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		○年に数回ムーブメント勉強会や事例検討会などを行っている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		○図書館や近所にある子ども食堂に出かけて交流をしている。 ○公園遊びやイベント参加で交流する機会はあるが限られている。校区内児童が多いので難しさを感じる。	○長期休暇時に公園やイベント等に参加する際に関わる機会があります。今年に入り月に1回地域にある子ども食堂への参加を行い地域の子も達や大人の方との交流を図るために参加。コロナ禍で参加できたのは2回のみであった。今後も積極的に社会資源を活用していきたい。

	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		○子ども部会に参加をし、運営委員として部会運営について検討提案をし活動している。 ○子ども支援net会への参加をしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		○子どもの近況を毎日の送迎時に伝えどのような支援をしたかを伝えている。 ○保護者からの相談の中から対応を助言し支援を行っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		○子どもの近況を毎日の送迎時に伝えどのような支援をしたかを伝えている。 ○保護者からの相談の中から対応を助言し支援を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		○保護者会としては活動していませんが行事等で参加をよびかけ連携・交流の場を作るが就労しているかたも多く参加できる方が少ないのが現状である。 ○今年はコロナ渦のため密を避けるため感染対策をしながら「発達について」の理解と学ぶ会を開催しました。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		○月に1度にこびあ便りを発行し子ども達の様子や翌月の活動 行事予定を周知している。	
	35	個人情報に十分注意している	○			○今後も個人情報には十分な配慮をし守秘義務を徹底します。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
保護者への説明責任等	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			○事業所単体で行うことが多く地域の方を招待をすることは実施できていない。地域共生プロジェクトというイベントに毎年参加をしている。事業所のことを多くの方に周知できる場となっているが今年はコロナ渦で中止となった。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		○各マニュアルを策定している。	○対応マニュアルは策定しているが周知不足である。利用開始時の契約時に周知していく。

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		○月に1回避難訓練実施、その時の保護者への連絡手段、方法など実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		○外部研修に参加。職員間で認識を高めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		○基本的に身体拘束は行いませんが、車椅子やバギーの安全ベルトは保護者の同意のもと行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		○エピペンの持参のチェックを行う。	○エピペン持参のお子さんがあるが休業日にランドセルからかばんに入れ替えができていないかの確認を忘れがちなので徹底する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		○リスクマネジメント委員が中心となりレポートを集計しています。事例を検討することでスタッフ間のリスク感性を高める工夫をしている。	